パロキセチン錠「ＪＧ」

お飲みになる患者さま、ご家族の方へ

日本ジェネリック株式会社

1．お薬を正しく飲むために

効果があらわれるまでに時間がかかります。

飲みはじめてから１～２週間ぐらいから効果があらわれ始めます。少なくとも４週間以上続けて飲むことで効果を実感できるお薬です。
すぐに効果があらわれないからといって、勝手に飲むのをやめてしまわないように注意しましょう。

医師の指示に従って少量から始め少しずつ増やしていきます。

飲みはじめのころに吐き気や胃のもたれなどの症状があらわれることがあります。多くは自然と治りますがつらい時は医師に相談してください。お薬をゆっくり増やしながらあなたにあった量に調節していきます。

症状がよくなっても、医師の指示どおり続けましょう。

うつ病は再発・慢性化しやすいため、症状がよくなっても少なくとも半年間はお薬を毎日飲み続けることが大切です。症状がよくなったからといって、量を減らしたりしないようにしましょう。飲み忘れに気がついたときはできるだけ早く１回分を飲んでください。次の飲む時間が近い場合は１回とばして、次の時間に１回分お飲みください。

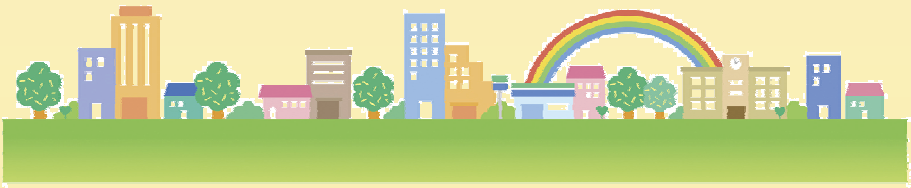
飲むのを中止したり、量を減らした場合にめまい・汗をかく・吐き気などの症状があらわれることがあります。

これらの症状の多くは、飲むのを中止してから数日以内にあらわれ、2週間程度で治まります。症状の程度はほとんどが軽いものですが、我慢できない症状があらわれた場合は、医師に相談してください。

飲むのを終了する場合には、時間をかけて少しづつ量を減らしていきます。

自分の判断で飲むのを中止してはいけません。このお薬は数週間～数カ月かけて減らすお薬です。うつ病は再発しやすいので、お薬は症状をみながらゆっくり減らします。

必ず、医師の指示に従ってください。



2．お薬を飲んでいる間の注意事項

うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと感じることがあります。

このお薬を飲んでいる間、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることがあります。このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。また、パニック障害、強迫性障害の人も同様に注意してください。

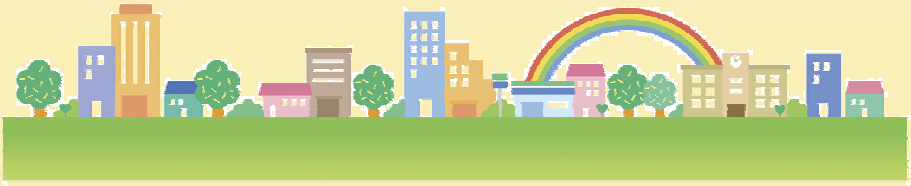
飲みはじめや増量時に、次の症状（アクチベーション）があらわれることがあります。

不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない等

これらの症状があらわれた場合は医師に相談してください。このお薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。

眠気・めまいなどの症状があらわれることがあります。

自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する時は、十分注意してください。これらの症状は、飲みはじめに多くあらわれます。



3. ご家族の方へ

受診にはできるだけご家族の方が付きそってください。

一緒に先生の話を聞くことで患者さんの状態やサポートの仕方がよく分かります。本人が受診に消極的な場合は、ご家族が代わりに受診されるのも、ひとつの方法です。そして、医師から聞いたことや、医療機関内の様子などを伝えると、本人の不安を少しでもやわらげてあげられます。

患者さんの状態の変化について観察し、見守っていてください。

ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受けてください。

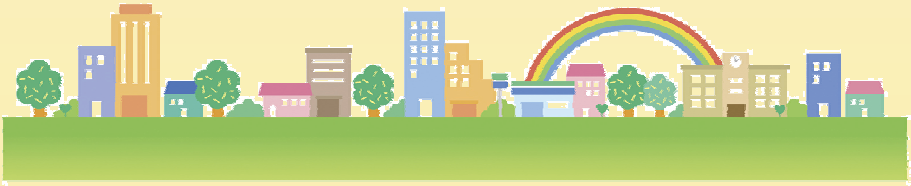
もし「死にたい・・・」など、自殺をほのめかすような発言があった場合は、すぐに医師に相談してください。特に、症状がある程度回復して気力が戻ってきたときが、もっとも危険な時期です。それとなく注意して見守っていてください。

18歳未満の方・ご家族の方へ

18歳未満の大うつ病性障害のある人がこのお薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったとの報告や、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。
18歳未満の大うつ病性障害のある人は、医師と十分に相談してください。

24歳以下の方・ご家族の方へ

24歳以下で抗うつ剤を使用した場合、死んでしまいたいという気持ちを強めるという報告があります。
24歳以下でこのお薬を使う人は医師と十分に相談してください。



医療機関名/連絡先